

第6回テーマ：深緑の飯能方面散策と昼食を楽しむ

1. 観音寺

山号：般若山、院号：長寿院、寺号：観音寺、本尊：如意輪観世音菩薩像、住所：飯能市山手町 5-17、宗派：真言宗智山派、備考：高麗三十三ヶ所霊場 10 番、武蔵野三十三観音霊場 24 番、武蔵野七福神の寿老人

観音寺の概要

真言宗智山派寺院の観音寺は、般若山長寿院と号します。創建年代は不詳ですが、江戸期には、慶安年中（1648-1651）に観音堂領として3石5斗の朱印状を拝領しています。本尊の如意輪観世音は弘法大師作と伝えられ、武蔵野三十三観音霊場 24 番、高麗郡三十三ヶ所霊場の 10 番となっている他、数多くの仏像を所蔵しており、寿老人は武蔵野七福神の一つとなっている。

観音寺山門
観音寺本堂



観音寺の縁起

観音寺の創建年代は不詳です

が、江戸期には、慶安年中（1648-1651）に観音堂領として3石5斗の朱印状を拝領しています。本尊の如意輪観世音は弘法大師作と伝えられ、武蔵野三十三観音霊場 24 番、高麗郡三十三ヶ所霊場の 10 番札所となっている他、数多くの仏像を所蔵しており、寿老人は武蔵野七福神の一つとなっています。慶應 4 年の飯能戦争では振武軍が立てこもり、能仁寺や智観寺、広渡寺とともに兵火に罹りましたが、本堂は明治 17 年、福寿殿は明治 42 年に建立された。

埼玉県掲示による観音寺の縁起

般若山長寿院観音寺は真言宗の寺で、市街地の中の寺として親しまれ、江戸時代（文化・文政期ごろ）には、高麗郡三十三ヶ所霊場の 10 番札所として庶民の信仰をみつめた。「法の音幾世耐えせず仰ぐらん百の願いの人の心よ」という巡礼御詠歌も残されている。如意輪観世音を本尊としているが、西国三十三番・坂東三十三番・秩父三十四番観音霊場の各御本尊の写しを合わせた百観音も本堂に安置されている。また境内には、文殊菩薩・不動明王・毘沙門天・大歓喜天・茶枳尼天・弁財天・大黒天・寿老人・布袋尊などもまつられており、特に天狗地蔵は幼児のすこやかな成長を祈る人たちの信仰が厚い。堂内の建物は、慶應 4 年 5 月に起こった「飯能戦争」によってことごとく焼失したが、明治 16 年に再建された。境内には、鎌倉期のものといわれる五輪の塔や板碑がある。また俳聖芭蕉の句碑や水原秋桜子の句碑もある。（埼玉県掲示より）

2. 能仁寺（飯能市）

能仁寺（のうにんじ）は埼玉県飯能市飯能にある曹洞宗の寺院。山号は武陽山。本尊は毘盧遮那仏（びるしゃなぶつ）。

歴史

寺伝によれば、文亀元年（1501年）、武蔵国高麗郡加治（現在の飯能）の豪族中山家勝が、諸国を巡歴していた名僧曹洞宗通幻派の斧屋文達を招聘して創建。小庵であったが、家勝の没後、天正元年（1573年）、子の中山家範が父の菩提を弔うため本格的な寺とし、中山家勝、家範、照守および、その後の中山家・黒田家の菩提寺となる。宝永2年（1705年）、当時館林藩家老であった黒田直邦は13世住職泰州廣基とともに老朽化した寺を改築し、伽藍を完成させた。そして、雲水50人、七堂伽藍を構える禅寺として栄華を誇った。



飯能戦争

慶応4年（1868年）5月23日、飯能戦争（戊辰戦争）の舞台となる。天野八郎と合わず上野の彰義隊を離れた渋沢成一郎を首領とし、彰義隊脱退者で結成した振武隊は、青梅街道の田無（現西東京市）の総持寺を本営とする。ここで成一郎は尾高惇忠らと隊士を集める。5月15日、彰義隊と新政府軍の間で上野戦争が起こる。その前日に箱根ヶ崎（現東京都西多摩郡瑞穂町）に入っていた振武隊も行動を開始し上野に向う。しかし、彰義隊敗戦の報を受け、田無に戻り、彰義隊の生き残りを吸収して1,500名に膨れ上がった振武隊は5月18日、能仁寺に入り陣営を構築する。5月23日、3,500名の官軍は早朝から攻撃を開始、わずか数時間で勝敗は決し、寺はほとんど焼失。成一郎は被弾して負傷するも惇忠に抱えられて伊香保（現群馬県渋川市）に逃れた。参謀の渋沢平九郎（尾高惇忠の弟で渋沢栄一の養子）は変装して顔振峠を越えて敗走、黒山村（現埼玉県入間郡越生町）で官軍に捕捉され負傷、平九郎は割腹して自害した。22歳。成一郎と惇忠はなおも徹底抗戦の主旨を貫き、密かに江戸に戻り榎本武揚の艦隊に合流し、最後は箱館まで転戦する。

本堂は昭和11年（1936年）再興されたものである。

江戸時代、二十の末寺を有した飯能地方有名な大寺として、五十石の御朱印をいただき重きをなしてきたが、飯能戦争の災厄や元文二年（1737）の火災など、順調な歴史ばかりではなかった。

能仁寺庭園

能仁寺本堂北庭として保存されている『池泉鑑賞蓬莱庭園』は面積324坪。

・天覧山の南急斜面を巧みに取り入れて、背後に枯滝を組み、下部を池泉とした上下二段式庭園の典型的なもの。

築山、亀島、鶴島、石橋、洞窟などを備え、池は底部が全て20cm前後の玉石で固められるなど幾多の傑出した手法や造形を見せていることで桃山時代の作庭と推定され、日本名園百選に入っております。東日本の代表的な名園として、貴重な存在であるとともに、飯能の文化財としても誇れるものの一つです。



3. 飯能市郷土館

所在地：埼玉県飯能市飯能 258-1 電話番号：
042-972-1414 営業時間：9:00～17:00

休館日：月曜日、祝日の翌日（祝日の場合は開館）、年末年始

「飯能市郷土館」は、飯能の歴史と特徴を分かりやすく紹介している資料館である。縄文時代から、高麗郡が設置された奈良時代、中世など時代ごとにコーナーを設け、収蔵している歴史図書、古文書、民具、考古資料のほか、行政資料や飯能市域から出土した縄文土器や飯能焼といった美術品など、市の歴史に関する資料を展示。

特に飯能市が林業が盛んであることから、江戸時代から昭和初期まで木材を運ぶ手段として用いられた「筏」をシンボル展示とし、常設展示室に林業コーナーを設けている。4月に収蔵品展、秋には特別展も開催。入館無料なのも嬉しい。



4. 智観寺

山号：常寂山、院号：蓮華院、寺号：智観寺、本尊：不動明王像、住所：飯能市中山 520、宗派：真言宗智山派、備考：高麗三十三ヶ所霊場 1 番、宝物殿は毎年 10 月最終日曜公開

智観寺の概要

真言宗智山派寺院の智観寺は、常寂山蓮華院と号します。秩父・加治両郷を領していた中山丹治武信が元慶年中（877-885）に創建したと伝えられます。永正年中（1504-1521）に朝覚上人によって中興、江戸時代には慶安元年に寺領 15 石の御朱印を拝領しています。慶應 4 年の飯能戦争の際には振武軍の陣となり、砲弾を受けた門扉が宝物殿に所蔵されています。智観寺大日堂（現宝物殿）は高麗三十三ヶ所霊場 1 番です。

智観寺参道（上左）

智観寺本堂（上右）



智観寺の縁起

智観寺は、秩父・加治両郷を領していた中山丹治武信が元慶年中（877-885）に創建したと伝えられます。永正年中（1504-1521）に朝覚上人によって中興、江戸時代には慶安元年に寺領 15 石の御朱印を拝領、寛永 7 年、密場の檀林となっています。慶應 4 年の飯能戦争の際には振武軍の陣となり、能仁寺や、智観寺、広渡寺とともに兵火に遭い、砲弾を受けた門扉が宝物殿に所蔵されています。本堂は明治 9 年唐竹村宝性寺の本堂を購入して再建、山門も昭和期に入り再建を果たしています。

5. 萬壽山 心應禪寺 「心應寺（しんのうぜんじ）の弁天さま」

心應禪寺。飯能市原町にある曹洞宗寺院、加治豊後守貞継開基

心應寺の概要

曹洞宗寺院の心應寺は、萬壽山と号します。創建年代は不詳ですが、鎌倉時代の草創、開基は加治豊後守貞継（応永3年1396年寂）と伝えられています。その後、天正の頃（1573-1591）能仁寺3世材室天良が当寺を改修、材室天良を当寺開山としています。江戸期には地藏堂領として4石の朱印状を拝領しています。

山号：萬壽山、寺号：心應寺、本尊：釈迦如来像、住所：飯能市原町277、宗派：曹洞宗、

6. 広渡寺

山号：平壽山、寺号：広渡寺、本尊：延命地藏、住所：飯能市八幡町16-5、宗派：曹洞宗、備考：高麗三十三ヶ所霊場15番、読経会・御詠歌等開催

広渡寺の縁起

広渡寺の創建年代は不詳ですが、僧花溪正春（永禄4年1561年寂）が中興開山、能仁寺5世吉州伊豚（元和2年1616年寂）が再中興したと伝えられます。慶安年中には地藏堂領として寺領3石の朱印状を拝領していましたが、慶應4年の飯能戦争で過去帳等を焼失、さらに明治初年には神仏分離令により、八幡神社を分離しました。

地藏堂：地藏長1尺1寸5分、木の坐像にて運慶の作と云。外に愛染を置。長7寸5分木の坐像にて、これも運慶の作なりと云。
古墓：何人の墓所なるや詳ならず。建武5年9月3日禅覚敬白と、刻する板碑あり。（新編武蔵風土記稿より）



7. 八幡神社

社号：八幡神社、祭神：誉田別命、境内社：三峯神社、飯能稻荷大明神、住所：飯能市八幡町12-6
もと別当寺：広渡寺

八幡神社の概要

八幡神社の創建年代は不詳ですが、文化・文政期（1804-1829）までは中山に鎮座、八幡町附近真能寺村の鎮守でした。明治維新後当地に移転したものと推定されます。明治5年には村社に列格、明治40年飯能町字原の無格社神明社を合祀しています。

注) 上記資料は各種ブログから抜粋し纏めています。

以上